



全標協広報

2019 1
NO. 336

○会長新年挨拶……………	1
○年頭祝辞（交通局長、道路局長）……………	2
○両省庁に予算等要望……………	3
○議員懇談会等の開催……………	4
○自転車活用推進の会設立……………	5
○登録基幹技能者講習合格者……………	6
○子どもを守ろう全国大会……………	7
○JICA研修への協力……………	10
○近畿整備局等との勉強会……………	11
○お知らせ……………	12

ご意見をお寄せ下さい！ Eメール:soumu@zenhyokyo.or.jp

「トラフィックサポーター」は、ホームページではカラー版でご覧いただけます

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19 にしかわビル3F（一社）全国道路標識・標示業協会 TEL 03-3262-0836 ホームページ: <http://www.zenhyokyo.or.jp/>



新本館・教室棟が完成した富士教育訓練センター
(写真提供 同センター)

新年のご挨拶

会長 清水 修 一



新年明けましておめでとうございます。本年が皆様及び業界にとってよき一年であることを念願し、新年のご挨拶を述べさせていただきます。

まず、昨年を振り返りますと、当協会が講習・研修を行っている富士教育訓練センターの新本館・教室棟が完成しました。一昨年に新しい宿泊棟が完成しており、受講生は快適な環境で受講できるようになりました。

また、道路標識設置・診断士研修は、研修内容をレベルアップして道路標識点検診断士研修となり、第1回の研修が行われました。

さらに、講習等で使用する路面標示ハンドブックが6年ぶりに改訂されました。

次に、今年一年を展望しますと、本年は天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位や統一地方選挙、参議院議員選挙があり、慌ただしい年となります。また、東京オリンピック・パラリンピックの前年で、標識標示の国際化等にしっかりと対応していかなければなりません。

このような情勢の下、まず、昨年国土交通省技術者資格登録の申請を行った道路標識点検診断士制度は、できるだけ早期に登録の認可を得たいと考えて

おります。また、道路標識設置・診断士資格保有者が道路標識点検診断士の資格を得るための特例研修を本年1月から行います。

さらに、昨年8月に路面標示用塗料のJISが改正され、本年4月から黄色塗料の鉛クロムフリー化が実現します。はみ禁等の更新が十分に行われるよう、単価アップ分の予算確保に努めていかなければなりません。

私は、全標協の重要目標は「人づくり」、「組織づくり」、そして「仕事づくり」であると思っています。「人づくり」は、登録基幹技能者講習、点検診断士研修等で着実に進められています。

「組織づくり」は、会員数の拡大、協会事業の充実、委員会活動の活発化に努力していかなければなりません。

「仕事づくり」は、厳しい情勢が続いていますが、全標協は、国土交通省、警察庁への要望活動等で関係者の理解を得る努力をしています。今年も各支部とともに活動をより活発化させ、道路標識・標示の整備に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

終わりに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。



警察庁交通局長年頭祝辞

警察庁交通局長 北村 博文

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、平素から交通警察行政の各般にわたり、深い御理解と御支援をいただいておりますことに對し、深く御礼申し上げます。

さて、昨年の交通事故による死者数は、3,532人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となった前年を、更に下回りました。

これもひとえに、平素から交通安全活動に携わる皆様の多大なる御尽力のたまものであり、心から感謝を申し上げます。

しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で失われていることには変わりなく、飲酒運転等の悪質・危険な運転による重大な交通事故も依然として後を絶たないなど、交通事故情勢は厳しい状況にあります。

こうした情勢を踏まえ、警察といたしましては、悲惨な交通事故を1件でも減少させ、政府が目標とする「世界一安全な道路交通の実現」に向け、子供や

高齢者の安全確保や高齢運転者の交通事故防止等を重点として、各界各層と連携しながら、交通安全教育、交通指導取締り、交通安全施設等の整備、先端技術の普及活用及び過信・誤信防止に向けた取組等の諸対策を着実に推進していくこととしております。

現下の厳しい交通事故情勢の中で交通死亡事故等抑止の効果を上げるためには、警察と関係機関・団体が連携を一層強化し官民一体となって取り組んでいくことが不可欠と考えております。

貴協会におかれましては、より良い道路交通環境の実現のための道路標識・標示の研究開発等を始め、春・秋の全国交通安全運動の機会における広報啓発活動や「子どもを守ろうプロジェクト」などの交通安全活動に取り組んでいただいておりますが、今後とも、こうした活動を推進していただきますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展と皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



国土交通省道路局長年頭祝辞

国土交通省道路局長 池田 豊人

平成31年の新しい年を迎え、お慶び申し上げます。また皆様には、平素から道路行政の推進につきまして、格別のご

支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

国土交通省が担う社会資本整備は、経済成長や安全・安心な国民生活の礎を築き、未来を切り拓く投資であり、これからの社会資本整備には、生産性の向上や安全・安心の確保などのストック効果が地域の隅々まで最大限発揮されるよう、高速道路ネットワークの機能強化など、重点的かつ戦略的な取組の加速が求められています。

昨年は、平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震、9月の台風21号等により、全国各地で度重なる災害により甚大な被害が発生し、地域活動にも多大な影響が生じました。昨年末に取りまとめた「防災・減災、国土強靱化のための3ヵ年の緊急対策」として、土砂災害に対応した道路法面対策や無電柱化の推進等の緊急対策を実施して参ります。

また、平成30年7月豪雨において、被災により通行止めとなった高速道路の広域迂回路として道路

ネットワークが機能したほか、被災した4車線区間のうち2車線を対面通行として交通機能を早期に確保するなど、災害時においても道路が重要な役割を果たしていることを踏まえ、引き続き道路ネットワークの整備や機能強化を進めます。

さらに、昨年3月の道路法改正により創設した重要物流道路制度の活用や、これを契機とした広域的な道路ネットワークの見直しを行いながら、平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保や、基幹となるネットワークの整備等を進めてまいります。

道路標識については、高速道路ナンバリングや英語表記の改善等によりわかりやすい道案内を推進するための整備を進めます。あわせて、定期点検結果に基づき対策が必要な門型標識等の修繕を着実に実施するとともに文字等が見えにくい標識の更新等にも取り組んで参ります。

今後も、皆様のご協力も賜りながら、多岐にわたる道路行政を進めて参ります。

結びに、皆様の一層の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

平成31年度予算等要望書を提出

全標協は、国土交通省及び警察庁に平成31年度予算等要望書を提出しました。

12月5日(水)、全標協の清水会長、光吉副会長、松村副会長、新美副会長、伊藤専務理事、笠原専務理事が国土交通省の森昌文事務次官、池田豊人道路局長はじめ関係幹部を訪れ、予算等要望書を提出しました。また、同日、警察庁の北村博文交通局長を訪れ、要望書を提出しました。

森事務次官との懇談においては、外国人の受入れ問題や、業務の効率化、単価積算等について意見を交わしました。

北村交通局長は「道路標識等の県単独事業は、県警の努力などにより増加傾向にある。自動運転の時代には、道路標示の重要性が高まると認識している。」と述べられました。

国土交通省

平成31年度予算要望書

交通安全対策事業は国民の安全と安心を確保する重要な事業であり、とりわけ生活道路や通学路等の安全対策、逆走対策、老朽化対策等は、喫緊の課題となっております。つきましては、平成31年度予算編成に当たり、次に掲げる項目について、格別のご理解・ご高配を賜うようお願い申し上げます。

- 1 平成31年度道路関係予算の満額確保並びに国及び地方公共団体等の道路交通安全対策事業予算の増額確保
- 2 国民の安全・安心を確保するための交通安全対策事業の促進
 - ① 老朽化が進む道路標識等の着実な点検・診断・更新事業の促進並びに単柱式を含む門型以外の標識の点検等の促進
 - ② 生活道路や通学路、踏切等に関する交通安全対策事業の促進並びに高速道路の逆走対策、歩行者等の誤進入対策の促進
 - ③ 自転車利用環境の創出のためのピクトグラム、矢羽根等の路面表示及び道路標識等の整

備促進

- ④ 国際化対応に向けた高速道路ナンバリングの東京オリンピック・パラリンピックまでの概成及び道路案内標識の英語表記化の促進
- ⑤ 路面標示の維持管理の適正化に向けた調査研究の推進
- 3 交通安全対策事業における分割発注等の更なる促進
 - ① 道路標識・路面標示等の交通安全対策事業における分割発注の促進及び所要工期の確保
 - ② 早期発注等による工事平準化の促進
- 4 工事品質を確保するための専門事業者、専門家の積極的活用
 - ① 道路標識及び路面標示設置工事等における専門事業者の積極的活用
 - ② 高度な技能・技術を有する「道路標識点検診断士」、「登録標識・路面標示基幹技能者」、「路面標示施工技能士」の積極的活用
 - ③ 上記②の専門家の活用を図るため、当該資格保有者の設計図書、入札説明書等への明示
- 5 道路標識点検診断士に係る国土交通省技術者資格（小規模附属物の点検・診断業務）の登録化



森事務次官への要望



池田道路局長への要望

警察庁

平成31年度予算等に関する要望書

道路標識及び道路標示等の路面標示の整備については、平素より警察庁及び都道府県警察にご高配を賜っており、厚く御礼申し上げます。

道路標識及び路面標示は、近年老朽化が進んだものがあり、また、環境面での配慮や国際化対応が必要となっております。つきましては、次に掲げる事項について、格別のご理解と都道府県警察へのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 交通安全施設である道路標識及び路面標示の整備に必要な国及び都道府県の予算の確保
- 2 「はみ禁」に使用される黄色塗料の鉛・クロムフリー化（平成31年4月）に伴う予算の増額
- 3 東京オリンピック・パラリンピック等の開催及び訪日外国人の増加に対応するための標識等の国際化の推進～「一時停止」・「徐行」標識の

英字（「STOP」、「SLOW」）併記標識への更新の促進

- 4 道路標識等の点検・診断の推進及び標識・標示専門事業者の活用

当協会が登録標識・路面標示基幹技能者及び道路標識点検診断士を育成

- 5 早期発注による工事の平準化の促進
- 6 通学路等の交通安全対策を推進するためのゾーン30事業の充実



北村交通局長への要望

第4回議員懇談会等が開かれる

10月及び11月に各種懇談会等が開催され、全標協が業界の状況や要望を説明し、関係者のご理解を得る活動を行いました。

(1) 道路標識等議員懇談会

11月7日（水）、自由民主党本部において第4回道路標識等議員懇談会が開かれました。懇談会には二階俊博懇談会会長（自民党幹事長）、竹下亘会長代行はじめ15名の国会議員、国土交通省池田豊人道路局長、警察庁北村博文交通局長などの関係官庁幹部が出席され、全標協・全標協政治連盟からは清水会長、光吉、新美両副会長はじめ関係幹部、北海道、東北、北陸、中部、関西、中国、九州の7支部（協会）の支部長等が出席しました。

懇談会では、竹下会長代行のご挨拶、清水全標協会長の挨拶の後、新美副会長が、国土交通省関係では、①ナンバリング標識の整備状況、②2020年以降の案内標識の課題、③標識のメンテナンスに関する新技術、④要望事項について説明しました。

また、警察庁関係では、①交通安全施設等整備補助金の推移、②規制標識・路面標示の事例、③「はみ禁」用路材の出荷量及び施工数量の推移、④「止

まれSTOP」規制標識の整備状況、⑤要望事項について説明しました。

その後の意見交換では、多数の国会議員から「標識標示の整備状況と交通事故の発生状況との関係」、「予算減少の理由」、「標識の整備状況の国際比較」、「標識標示の点検状況」、「自転車道の整備状況」等多数の質問が出され、活発な議論が交わされました。



(2) 予算・税制等政策懇談会

11月13日（火）、自由民主党本部において「予算・税制等に関する政策懇談会」が開かれました。懇談会には自民党の伊藤忠彦国土交通部長はじめ多数の国会議員が出席され、全標協などの関係団体と意見を交わしました。全標協からは清水会長、新美副

会長が出席しました。

懇談会では、清水会長が国土交通省関連及び警察庁・都道府県警察関連の予算要望をしました。出席した国会議員からは、「外国人が増えており、必要な予算を確保して標識標示を整備しなければならない。」「交通安全にとって大事な標示が消えているということなので、予算面でしっかりと対応していく必要がある。」といった意見が出されました。

（3）国土交通省との勉強会

10月3日（水）、国土交通省において第4回「区画線、標識、防護柵等の工事発注のあり方に関する勉強会」が開かれました。勉強会には国土交通省の池田豊人道路局長はじめ大臣官房、道路局の関係幹部、全標協の清水会長、光吉、松村、新美3副会長、伊藤専務理事はじめ関係幹部が出席しました。

勉強会では、「ナンバリング標識の整備状況」及

び「道路標識のメンテナンス」がテーマとなり、全標協からは「入札不調の状況と原因」（技術者の不足、交通規制業者の不足など）、「道路標識輝度測定システム」、「ナンバリング標識の「あて板補修」、「標識柱の不可視部分の調査方法（腐食劣化スクリーニング診断装置）」などについて説明をしました。

国土交通省からは、「標識に関するこれまでの取組と方向性」（「高速道路ナンバリング」、「英語表記の改善」、「交差点名標識の改善」など）、「訪日外国人向け道路標識改善の取組」（「高速道路ナンバリング」、「主要な観光地等における道路案内標識の改善」）、「道路施設の点検結果」及び「道路附属物の路面境界部以下の状態を非破壊で検出できる技術の検証（NETISテーマ設定型）」についての説明がありました。

その後意見交換となり、双方から多数の質問が出され、有意義な勉強会となりました。

自転車を活用したまちづくりを推進する会が設立される

平成30年11月15日（木）、都内文京区において「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」設立総会が開催されました。

同会には全国294市区町村が加入し、設立総会には石井啓一国土交通大臣、二階俊博自転車活用推進議員連盟会長（自民党幹事長）はじめ多数の来賓が出席され、全標協からは光吉副会長が来賓として出席しました。総会では、国土交通省自転車活用推進本部事務局大野昌仁次長（道路局参事官）の基調講演がありました。

同会は、今後、自転車による観光振興、健康増進、交通混雑の緩和等により公共の利益を増進し、自転

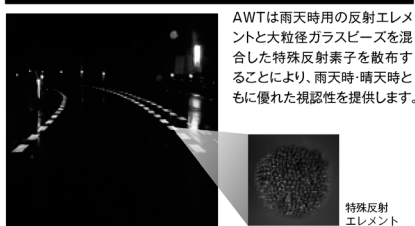
車文化の向上を図ることとしています。



夜間の安全走行を サポートする3Mの テクノロジー

3M Japan Group
スリーエム ジャパン株式会社
トランスポート・サービス事業部
〒141-8684
東京都品川区北品川6-7-29
<http://www.mmm.co.jp/ref/>

3M™ 全天候型溶融式路面標示材 3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)

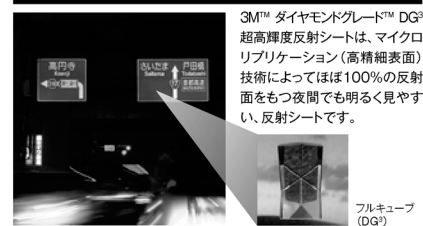


AWTは雨天時の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射素子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。

特殊反射
エレメント

カスタマーコールセンター
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで
0570-012-123
ナビダイヤル。市内通話料金でご利用いただけます。
受付時間／8:45～17:15 月～金（土・日・祝・年末年始は除く）
3M、ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート（広角プリズム型フルキューブ）



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シートは、マイクロリプリケーション（高精細表面）技術によってほぼ100%の反射面をもつ夜間でも明るく見やすい、反射シートです。

フルキューブ
(DG³)

3M

平成30年度第2回登録基幹技能者講習合格者

標 識		
支部名	氏 名	会 社 名
東北	奥山 広孝	(株)東北三恵
関東	鈴木 健次	小桜建設(株)
関東	粕谷 英明	日本ロードマーク(株)
北陸	大嶋 俊雄	交通企画(株)
中部	辻 直樹	(株)日本ロードライン
中国	山田 維人	東洋交通施設(株)
中国	河本 昇二	(株)セーフティ
四国	井上 雄介	(株)四国ライン
四国	松下 幸裕	(株)桃陵工業
四国	三谷 貴則	富国産業(株)
九州	高山 淳	(株)サンテクノ
九州	奥田 哲司	太陽テック(株)
沖縄	喜納 政利	沖縄道路興業(株)

路面標示		
支部名	氏 名	会 社 名
北海道	飯原 史浩	北進開発(株)
北海道	白井 泰仁	日本マーキング(株)
北海道	生駒 一人	日本マーキング(株)
北海道	亘 真暢	日本ライナー(株)北海道支店
北海道	相原 英二	極東建設(株)
北海道	結城 洋志	(株)ロード工業
北海道	阪本 大輔	(株)保工北海道
北海道	千田 雅俊	北進開発(株)
北海道	工藤 和男	アイケー工業(株)
北海道	番場 幸正	(株)札幌ロードメイク
東北	小山内 聡	(株)永澤興業
東北	千葉 靖行	協積産業(株)
東北	菅原 貴晶	協積産業(株)
東北	畠山 功太	(株)秋田デックライト
東北	村山 誠一	山田塗装(株)
東北	松本 匡	(株)リンペイ
東北	青野 健二	(株)リンペイ郡山支店
東北	藤原 正一	(株)キクテック仙台
東北	八島 勝美	仙台ライン(株)

路面標示		
支部名	氏 名	会 社 名
東北	菊池 貴	仙台ライン(株)
東北	長田 哲郎	(株)協栄興産
東北	鈴木 光朗	(株)新栄産業
関東	中島 雅之	新栄産業(株)
関東	平澤 正信	(株)日本都市
関東	松田 浩一	三和工営(株)
関東	赤須 崇	サンテック(株)
関東	山下 孝雄	(有)ロードワークス
関東	安藤 聡	カンセイ工業(株)
関東	伊藤 真行	(株)三積商事
関東	近藤 竜也	ダイケンテクノ(株)
北陸	松原 洋志	日本海興発(株)
北陸	松本 達弥	アドライナー(株)
中部	合浦 竜一	愛岐工業(株)
中部	遠藤 裕康	交通企画(株)中部支店
中部	中井 亮	エスジェイシー寿(株)
中部	牛場 清	中部産業(株)
中部	木下創一郎	日本ライナー(株)中部支店
中部	永田 直行	(株)ロード産業
関西	阪口 雅人	(株)ケー・エス・エンジニアリング
関西	中西 亮輔	(株)三和ライン
関西	豊留 武	三栄ライン(株)
関西	西山 英仁	(株)ラインプロジェクト
中国	梶谷 進也	(株)ホクト
中国	和田 敦志	(株)広島みかど
中国	坂本 克利	(有)西京ラインサービス
中国	浅田 和義	(株)九内
中国	岸波 暁史	(株)広島みかど
四国	長岡 里士	(株)桃陵工業
四国	福家 誠一	富国産業(株)
四国	上岡 博明	入交道路施設(株)幡多支店
九州	中園健太郎	(株)西部システム
九州	矢野 仁克	(株)山水製作所
九州	中村 幸成	今別府産業(株)
九州	山寄 裕紀	(株)テイクライン



子どもを守ろうプロジェクト第10回全国大会開催される

全国大会事務局 愛知県協会 前山 達彦

10月25日（木）、子どもを守ろうプロジェクト第10回全国大会が、山梨県甲府市の常磐ホテルにおいて開催されました。この大会には全標協本部、北海道、青森県、岩手県、関東支部、東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県、関西支部、京都府、兵庫県、中国支部、広島県、山口県、九州協会、福岡県、鹿児島県と全国23都道府県、4支部より152名ものご参加をいただきました。



大会は山梨県協会山下勉副会長が司会を務め、最初に大会事務局の愛知県協会前山より開会のご挨拶を申し上げます。次に、地元山梨県協会の浅川貴会長より「今日の会議により各種の取組を学びながら、次世代を担う子どもたちの安全のためにプロジェクトの更なる成果が挙がることを願います。」との歓迎の挨拶がありました。

清水会長挨拶

全標協を代表して清水会長より「本プロジェクトは12年前愛知県協会が始まり、前山支部長や愛知県協会の皆さんの地道な努力、活動により全国展開をするようになり、全標協主催の全国大会という形では5回目で、通算10回目の開催となりました。この社会奉仕活動を通じて協会や我々の仕事について広く世の中の人に理解してもらうことが非常に大切なことではないかと思います。最近では、全国各地での活動が新聞、テレビで報道されるようになってきました。このような活動を子どもたちと一緒にすることにより、将来このような仕事に就いてみたいと

いう子どもが出てくれば、これも一つの大きな効果と言えます。今後とも各方面のご理解をいただき、活動を続けてまいりたいと思います。」との挨拶がありました。

ご来賓挨拶

ご来賓を代表して、山梨県知事代理の山梨県垣下禎裕県土整備部長から「子どもは国の宝であり、未来を担ってくれる大人に育つように全力を尽くすことが我々の責務であります。」とのご挨拶を賜りました。



垣下県土整備部長

山梨県警察原幸太郎警察本部長からは「道路標識・標示業協会の皆さまには、子どもを守ろうプロジェクトのボランティア活動を通じて、子どもたちを犯罪や交通事故から守るなど大きく貢献いただき感謝申し上げます。」とのご挨拶を賜りました。



原警察本部長

甲府市樋口雄一市長からは「子ども最優先の街の実現に向け、今後も防犯活動や交通環境の改善に取り組み、児童の安全確保に努めてまいりますので、お力添えをお願いします。」とのご挨拶を賜りました。



樋口甲府市長

このほか、ご来賓として、保坂武甲斐市長、内藤久夫韮崎市長、上田仁山梨県議会議員、山梨県警察本部交通部川口守弘交通規制課長、同伊藤政貴管理官のご臨席を賜りました。

各県協会「子どもを守ろうプロジェクト」活動報告

概要は以下のとおりです。

山梨県協会



「とびだしちゅうい！」
の標示シート貼付け



語の標示シート「イカのおすし」を貼付け施工し、寄贈しました。

埼玉県協会

埼玉県協会は本年度から本格的にプロジェクト活動を開始し、平成30年度は、上尾市立中央小学校において「飛び出し注意」の路面シート貼付け、通学路における「グリーンベルト（「一列で歩きましょう」の標示入り）」施工、「スクールゾーン飛び出し注意」の



○児童によるシート貼付作業

着工式後、正門前において、児童会生徒及び上尾市長、学校長によるシート貼付作業を行った。



児童会によるシート貼付作業



児童会・上尾市長・学校長

平成27年度からプロジェクトを開始し、子どもの登下校時における交通災害を減少させることを目的として活動してまいりました。平成29年度は、甲府市立新田小学校周辺に安全対策施工を寄贈しました。

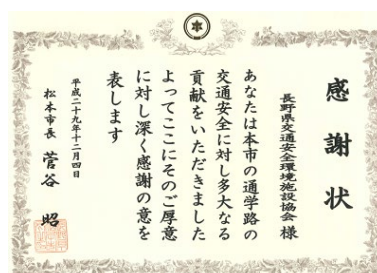
平成30年度は甲府市内の石田小学校、国母小学校、舞鶴小学校、山城小学校、相川小学校の5校に防犯標

長野県協会

長野県協会員は、長野県交通安全環境施設協会に全て加盟しており、プロジェクトも同協会と一緒に



速度抑制標示
「赤・白ドットライン」



野県交通安全環境施設協会に対し感謝状の贈呈がありました。

愛知県協会

愛知県では南海トラフ巨大地震の発生が予想され、深刻な被害が想定されています。東日本大震災では多くの子どもたちが犠牲になったことから、子どもを守ろうプロジェクトのテーマのうち「災害」への取組を5年前から継続し、昨年は津波被害の予想される知多郡東浦町で実施させていただきました。夜間停電時に避難場所へ誘導するソーラー照明付き避難誘導サインや緑の発光鋏で誘導を行い、子どもの目線で認識しやすい貼付シートを設置しまし

行わせていただいております。

平成30年度の長野県協会におけるプロジェクトは、交通弱者対策として推進されている「ゾーン30エリア」内に所在する小学校を対象とし、松本市、長野県警交通規制課、松本警察署の関係機関と協議した結果、全校児童が961名とマンモス校で通学路対策への要望が多い松本市立梓川小学校に決定いたしました。

交通標語のシートについては、標語と絵柄をコンテスト形式で6学年児童から募った作品の中から選定しました。また、今回のプロジェクトで松本市長から長

た。また、新潟市において発生した児童殺害事件を受け、本年5月に「登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議」が開催され、6月に登下校時の子供の安全確保のための「登下校防犯プラン」として対策が取りまとめられました。当協会はこの施策に対し、愛知県警に協力し、取り組んでいきたいと考えております。



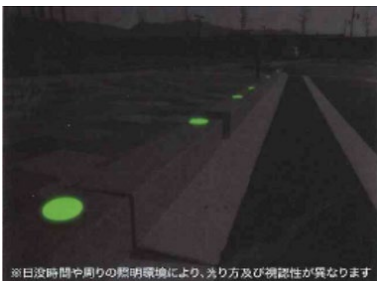
ソーラー式発光鈺（昼間）



ソーラー式発光鈺（夜間）



蓄光式発光鈺（昼間）



蓄光式発光鈺（夜間）

平成30年度は愛知県幸田町地内において避難所への案内標識、発光鈺等の設置を予定しています。

設置場所は愛知県幸田町地内JR相見駅前、設置場所がインターロッキングブロック舗装のため路面への貼付けシート

施工が難しく、車線分離標に避難所と記載した蓄光式誘導標識をかぶせるものとししました。また歩道縁石には蓄光式発光鈺を設置し、夜間でも避難所への道筋が分かるようにしています。施工は年度内予定です。

この後各県の活動発表及び意見交換が行われ、全国各地での活発な活動報告がありました。

最後に全標協松村副会長より総評として「子どもを守ろうプロジェクト」の優れた点

- ①卓越した着眼点：「防犯・交通事故・防災」に着目し活動
- ②交通安全施設整備の専門的知識を有した技術者集団が行っている。
- ③ハード整備と同時にソフトの活動も行っている。
- ④学校周辺・通学路を重点に整備している
- ⑤学校・地域と連携して取り組んでいる
- ⑥情報交換を重ね、活動を全国展開している（全国交流会から全国大会へ）

などについての説明があり、閉会となりました。

懇親会は、全標協光吉副会長の挨拶、山梨県協会齋藤丈夫監事の乾杯の発声により始まり、全国の交流がにぎやかに行われました。次回開催地挨拶では九州協会今別府英樹会長の挨拶があり、その後、山梨県協会栗原宏展実行委員長により中締めが行われ、閉会となりました。

来年の第11回大会は鹿児島県で開催

来年の子どもを守ろうプロジェクト第11回全国大会はSEGODONこと西郷隆盛出身の鹿児島県で開催予定です。全国の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



JICA研修への協力

（一社）北海道道路標示・標識業協会事務局長 鎌田 昌治

1 JICA研修

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として開発途上国への国際協力を行っていますが、具体的な活動として、青年海外協力隊や国際緊急援助隊等の派遣のほか、途上国の中核的な役割を担う行政官や技術者等を研修生として日本に招き、各国で必要とされている知識や技術に関する研修も行っています。

当協会では、JICA北海道が計画し研修業務の委託を受けた一般社団法人北海道開発技術センターからの要請を受け、平成28年度から同センターが実施する課題別研修「道路維持管理」の企業視察に協力しており、今年度も10月12日（金）に会員企業での研修受入れに協力しました。

開発途上国では増大する自動車交通需要に対応するための道路整備が急務となっており、これらの課題解決や今後の効率的な道路維持管理実現のための対応策や改善策の策定を目的に計画された本研修では、9月12日（水）から10月20日（土）の間、道路行政や道路構造、舗装や橋梁等の維持管理等の講義のほか、現場見学や実習、道の駅や警察本部交通管制センターの見学等のカリキュラムとともに、当協会が協力した「路面標示」や「道路標識」等の企業視察が道内各地で実施されました。

今回協力した研修には、フィリピンはじめ8か国9名の研修生が当協会会員である日本マーキング株式会社（札幌市手稲区）と株式会社大宮ホーロー北海道製作所（札幌市豊平区）を訪問しました。

（研修生）フィリピン、カンボジア、スリランカ、リベリア、マラウイ、パキスタン、レソト、エルサルバドルの行政官の皆さん

2 路面標示（日本マーキング株式会社）

日本マーキング株式会社・西村安弘営業総括部長から道路標示の種類や単価、用途、施工機の仕様等について説明した後、同社駐車場において溶融式や加熱式の工事施工の実演を実施しました。

研修員の皆さんからは「ラインの寿命はどのくらいか」、「雨の日の施工は可能か」といった質問のほか、説明要員として参加した当協会道路標示委員に対しても個別に様々な質問がありました。



3 道路標識（株式会社大宮ホーロー北海道製作所）

株式会社大宮ホーロー北海道製作所・甚内敏博社長からの歓迎挨拶の後、甚内祐亮専務取締役から道路標識の製造工程について説明し、同社工場において文字記号のカット・貼付やスポット溶接、圧着作業等を見学しました。

研修員の皆さんからは道路標識用反射シートの品質や価格といった質問のほか、北海道の積雪時に欠かせない矢羽根（やばね）や市町村の境界に設置されるカントリーサインに関する質問等がありました。



近畿地方整備局等との勉強会の開催

全標協関西支部事務局長 辻野 善久

1 はじめに

平成30年11月2日（金）、国土交通省近畿地方整備局等との勉強会を開催しました。

本年度からは、大阪国道事務所を皮切りに、近畿地方整備局管内の各国道及び河川国道事務所単位で開催することになりました。

今回の勉強会には、大阪国道事務所、浪速国道事務所のほか、大阪府、政令指定都市である大阪市、堺市や、西日本高速道路（株）、阪神高速道路（株）の担当者30名が出席されました。

近畿地方整備局道路部中尾勝交通対策課長の開会挨拶の後、関西支部平野好昭支部長から全標協の活動概要、基幹技能者講習や新制度の道路標識点検診断士の紹介があり、支部標識委員会天野達也委員長が、今回ピックアップした標識の健全性、経年変化による輝度低下等の問題点について説明を行いました。



2 勉強会議題

今回は、道路標識（柱）の老朽化が進行する現状において、次の2項目を議題としました。

- ①平成14年の設計基準改定以前に設置の標識について
ア 高架部設置の大型、小型標識の点検 ～ 高架部加重条件、斜風考慮

大阪国道事務所管内の国道43号の高架部に設置された2基の標識について照査した結果を発表しました。

- イ 一般部設置の大型標識の点検 ～ 斜風考慮

同事務所管内の国道26号の一般部に設置された2基の標識について、同様に照査した結果を

発表しました。

以上2例について、現場検証結果を具体的な数値と新旧図集の数値を比較説明するとともに、対策案等を紹介しました。

- ②夜間における標識の視認性の確認について（経年変化による輝度低下について）

国道26号に設置されている3基の案内標識を選び夜間の輝度測定を行い、経年変化による夜間の視認性の低下を確認提示するとともに、測定方法評価基準について紹介説明しました。

測定方法の道路標識輝度測定システムを紹介するとともに、同システムをドライバーの目線の高さでロービーム状態にて、標識の反射輝度を測定する方法を模式図で説明し、その結果については、当協会が出版している「道路標識維持管理マニュアル（案）」の「標識板白色輝度の診断評価基準」に基づき評価した結果を提示しました。

また、長寿命標識（広角プリズム型標識）と従来のカプセルレンズ型との比較、新設時のコスト、ライフサイクルコスト及び標識板別の輝度性能の良さ等を説明しました。

担当者からは、標識点検診断の範囲、方法や費用等についての質問が出されました。

3 おわりに

勉強会の閉会に当たり、中尾交通対策課長から、勉強会の開催への謝意と、このような勉強会を今後も各事務所単位で開催したいとの挨拶がありました。



